No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山陽レミコン株式会社呉工場
配合計画者名　角　智成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日　左期以外の期間については備考欄に記述。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ﾎｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	5以下	2.85	2.57	2.61	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (2010)	A	化学法	20～10	6.97	2.64	2.66	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (1505)	A	化学法	15～5	6.35	2.64	2.66	0.5±0.5
	③	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (4020)	A	化学法	40～20	7.95	2.64	2.66	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％ 0.5
混和剤②		フローリックAE－6		AE剤Ⅰ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水（上澄み水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
271	－	－	157	658	165	－	377	252	419	－	1.90	2.17	－

水セメント比	58 ％	水結合材比	－ ％	細骨材率	44.4 ％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:② 80.0:20.0 粗骨材①:②:③ 36.0:24.0:40.0

混和剤使用量（AE減水剤）：夏期6月12日～9月30日+0.1％　冬期12月21日～3月10日-0.1％

配 合 計 算 書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	W/C≦60%				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 9　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.3\ N/mm^2$

よって　$m = 29.3\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -14.0 + 25.4 \times C/W$

$W/C = 25.4 \div (29.3 + 14.0) \times 100 = 58\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C = 58　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 58 \times 100 = 271$　kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 271 \div 3.02 = 90$　ℓ/m³

(6)空気量(A)　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 44.4　%

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = (1000 - (W + Cv + A)) \times s/a = 708 \times 44.4\ \% = 314$　ℓ/m³

$S = Sv \times$ 表乾密度 $= 314 \times 2.62 = 823$　kg/m³

$S1 = S \times 80.0\ \% = 658$　kg/m³

$S2 = S \times 20.0\ \% = 165$　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　$Gv = 1000 - (W + Cv + Sv + A) = 1000 - 606 = 394$　ℓ/m³

$G = Gv \times$ 表乾密度 $= 394 \times 2.66 = 1048$　kg/m³

$G1 = G \times 36.0\ \% = 377$　kg/m³

$G2 = G \times 24.0\ \% = 252$　kg/m³

$G3 = G \times 40.0\ \% = 419$　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad1 = C \times$ 添加率 $= 271 \times 0.7000\ \% = 1.90$　kg/m³

$Ad2 = C \times$ 添加率 $= 271 \times 0.8000\ \% = 2.17$　kg/m³

配 合 表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
271	−	−	157	658	165	−	377	252	419	−	1.90	2.17	−

水セメント比	58 %	細骨材率	44.4 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②	80.0:20.0
					粗骨材①:②:③	36.0:24.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山陽レミコン株式会社呉工場
配合計画者名　角　智成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日　左期以外の期間については備考欄に記述。 修正標準配合（夏期）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	A
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－ %		

使用材料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq %	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	5以下	2.85	2.57	2.61	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（2010）	A	化学法	20～10	6.97	2.64	2.66	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（1505）	A	化学法	15～5	6.35	2.64	2.66	0.5±0.5
	③	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（4020）	A	化学法	40～20	7.95	2.64	2.66	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤（標準形Ⅰ種）	Na_2Oeq % 0.5
混和剤②		フローリックAE－6		AE剤Ⅰ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水（上澄み水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
271	－	－	157	658	165	－	377	252	419	－	2.17	2.17	－

水セメント比	58 %	水結合材比	－ %	細骨材率	44.4 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　80.0:20.0 粗骨材①:②:③　36.0:24.0:40.0

混和剤使用量（AE減水剤）：夏期6月12日～9月30日+0.1%　冬期12月21日～3月10日-0.1%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項　W/C≦60%

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 9　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.3\ N/mm^2$

よって　$m = 29.3\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -14.0 + 25.4 \times C/W$

$W/C = 25.4 \div (29.3 + 14.0) \times 100 = 58\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C = 58　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 157 ÷ 58 × 100 = 271　kg/m³

Cv = C ÷ 密度 = 271 ÷ 3.02 = 90　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 44.4　%

(8)単位細骨材量(S)　Sv = (1000 − (W+Cv+A)) × s/a = 708 × 44.4 % = 314　ℓ/m³

S = Sv × 表乾密度 = 314 × 2.62 = 823　kg/m³

S1 = S × 80.0 % = 658　kg/m³

S2 = S × 20.0 % = 165　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　　Gv = 1000 − (W+Cv+Sv+A) = 1000 − 606 = 394　ℓ/m³

G = Gv × 表乾密度 = 394 × 2.66 = 1048　kg/m³

G1 = G × 36.0 % = 377　kg/m³

G2 = G × 24.0 % = 252　kg/m³

G3 = G × 40.0 % = 419　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad1 = C × 添加率 = 271 × 0.8000 % = 2.17　kg/m³

Ad2 = C × 添加率 = 271 × 0.8000 % = 2.17　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
271	−	−	157	658	165	−	377	252	419	−	2.17	2.17	−

水セメント比	58 %	細骨材率	44.4 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②	80.0:20.0
					粗骨材①:②:③	36.0:24.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山陽レミコン株式会社呉工場
配合計画者名　角　智成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日　左期以外の期間については備考欄に記述。 修正標準配合（冬期）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－
混和材②		－		－		－

				ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分				密度 g/cm³		
骨材	No.	種類	産地又は品名	区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	5以下	2.85	2.57	2.61	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（2010）	A	化学法	20～10	6.97	2.64	2.66	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（1505）	A	化学法	15～5	6.35	2.64	2.66	0.5±0.5
	③	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（4020）	A	化学法	40～20	7.95	2.64	2.66	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤（標準形Ⅰ種）	Na_2Oeq ％ 0.5
混和剤②		フローリックAE－6		AE剤Ⅰ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水（上澄み水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
271	－	－	157	658	165	－	377	252	419	－	1.63	2.17	－

水セメント比	58％	水結合材比	－％	細骨材率	44.4％	

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　80.0:20.0 粗骨材①:②:③　36.0:24.0:40.0

混和剤使用量（AE減水剤）：夏期6月12日～9月30日+0.1%　冬期12月21日～3月10日-0.1%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項	W/C≦60%

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 9　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.3\ N/mm^2$

よって　$m = 29.3\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -14.0 + 25.4 \times C/W$

$W/C = 25.4 \div (29.3 + 14.0) \times 100 = 58\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C ＝ 58　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 157　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 58 \times 100 = 271$　kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 271 \div 3.02 = 90$　ℓ/m³

(6)空気量(A)　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a ＝ 44.4　%

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = (1000 - (W + Cv + A)) \times s/a = 708 \times 44.4\ \% = 314$　ℓ/m³

$S = Sv \times$ 表乾密度 $= 314 \times 2.62 = 823$　kg/m³

$S1 = S \times 80.0\ \% = 658$　kg/m³

$S2 = S \times 20.0\ \% = 165$　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　$Gv = 1000 - (W + Cv + Sv + A) = 1000 - 606 = 394$　ℓ/m³

$G = Gv \times$ 表乾密度 $= 394 \times 2.66 = 1048$　kg/m³

$G1 = G \times 36.0\ \% = 377$　kg/m³

$G2 = G \times 24.0\ \% = 252$　kg/m³

$G3 = G \times 40.0\ \% = 419$　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad1 = C \times$ 添加率 $= 271 \times 0.6000\ \% = 1.63$　kg/m³

$Ad2 = C \times$ 添加率 $= 271 \times 0.8000\ \% = 2.17$　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
271	—	—	157	658	165	—	377	252	419	—	1.63	2.17	—

水セメント比	58 %	細骨材率	44.4 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②	80.0:20.0
					粗骨材①:②:③	36.0:24.0:40.0

備考